

## 会議結果の公表

附属機関等の名称	沖縄県立図書館協議会
日時	平成27年9月9日（水） 10:00～12:00
場所	沖縄県立図書館3階研修室
出席委員名	望月道浩会長、上原明子副会長、中村孝夫委員、豊見山恵美子委員、金城由美子委員、新垣吉宗委員、津波津賀子委員、呉屋美奈子委員、上江洲豪委員
議題及び報告事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 館長あいさつ及び委嘱状交付</li> <li>3 会長、副会長の選任</li> <li>4 議事             <ol style="list-style-type: none"> <li>①県立図書館の概要説明、館内見学について</li> <li>②「沖縄県立図書館評価指標による図書館評価」について</li> </ol> </li> <li>7 各委員からの図書館への提言</li> <li>8 閉会</li> </ol>
議事の概要	<p>(1) 議事に対する質疑応答を行った。</p> <p>(2) 「沖縄県立図書館評価指標」についての報告・説明を行い、そのことについて質疑応答を行った。</p> <p>(3) その他、委員からの質疑及び提言は議事録のとおり。</p>
公開・非公開の別	公開
非公開の場合の理由	-
所管課等	沖縄県立図書館
問い合わせ先	総務班 担当 田中・平 電話 098-834-1218
備考	

平成27年度第1回沖縄県立図書館協議会 議事録

日時 : 平成27年9月9日(水) 10:00-12:00

場所 : 沖縄県立図書館3階 研修室

出席者: 望月道浩委員(会長)、上原明子委員(副会長)、中村孝夫委員、豊見山恵美子委員、  
金城由美子委員、新垣吉宗委員、津波津賀子委員、呉屋美奈子委員、上江洲豪委員

傍聴者: なし

- ・委嘱状について。
- ・館長挨拶
- ・事務局紹介
- ・会長、副会長の選任
- ・会長挨拶

<議事内容等>

まず、会長、副会長の選任において、会長に望月道浩委員、副会長に上原明子委員が選任された。

その後、望月会長の進行により、城間館長から館の概要について説明を行い、引き続き原主査より事業等の説明を行った。

説明終了後、議事に入った。議事における発言要旨は以下のとおり。

(事務局より議事①について説明)

(委員)

入館者数と貸出冊数についての統計が出ていますが、市町村比についてどうなっているのか。入館者数については統計を取ることは難しいと思うが、貸出冊数については統計を取ることはできるのではないかと。

(事務局)

市町村別の統計は取っていないが、直接来館についてはおそらく近隣の方が多いのではと考えられる。

(委員)

日頃から統計を取る時に、毎月でも他の市町村の方がどれくらい利用しているのかを館内で共有することは大事だと思われる。

(委員)

レファレンスの件数が前年比に比べ、かなりの伸びということで、これからもレファレンスへの認知が高まってくると思われる。現在、データを通して調べる方法と、フェイストゥフェイスで司書の方にしか対応できない案件が出てきている。国会図書館や県立図書

館においても的確なデータが蓄積され利用されている中で、人を介してのレファレンスのあり方が問われていくのではと感じている。例えばネットで調べるにしても、そこにデータがあると指示をされても、検索の方向性などについては素人ではたちうちできない面がある。その際、レファレンスに関わる専門の方には問題解決に対する方向性や、違う方向性からアプローチをするアイデアを提示するといったことが求められてくると思う。是非、レファレンス業務に関してデータの蓄積だけではなく、レファレンスをする職員のアイデアを増やすといった事を主に考えていただきたい。

(事務局)

現在、ネット上のレファレンスは専門的な方や検索の仕方に慣れている人が多く利用しているが、一般の方の多くは図書館の司書を利用している。実際レファレンスを受けていると、質問者の意図を把握できないことや、考え自体がまとまっていないことがあるので、そのようなところを司書が導いていく力が問われていると感じる。課題としては、図書館職員が短期で入れ替わってしまう現状があり、レファレンスの蓄積や人材育成を長期的に行えていないことである。図書館職員の任期の長期化といったことを含めて、課題に取り組んでいかないといけないと考えている。

(委員)

課題解決型図書館としての取組内での、健康・医療情報支援、生活情報支援については、それらの必要な情報について知りたい人は多くいると思われるが、実際は調べ方等が分からない人や情報を得るのに苦労することが多い現状がある。持ち帰り周知するなどして、図書館の取組みについて周知していきたいと考えている。

(委員)

沖縄県内では浦添市立図書館が導入している閉館時受け取りロッカーというサービスの導入を検討していただけないだろうか。これは図書館閉館時にも、外部に設置しているロッカーから本を受け取る事ができるサービスである。現在、浦添市立図書館しか導入していないサービスになるので、県立図書館が導入することで他の市町村図書館が後に続きサービスの拡充になるのではないかと考えるがどうか。

(事務局)

新館にむけて、大事なサービスの一つとして認識している。現状としては、財政面の調整等が必要な課題としてはあるが県立図書館としては実現ができるように努力していきたいと考えているサービスである。

(委員)

館として統計を取っているようだが、その中で利用者の満足度調査は定期的を実施しているのか。

(事務局)

調査を定期的実施しているといったことはない。

(委員)

新館に移転するという大きな事業を控えている中で、是非実施をした方がいいと考えるがどうか。

(事務局)

新館に向けてどのような施設にしたいかなどの要望アンケートは実施している（平成 25 年 11 月、県生涯学習振興課が実施）。その際に、館内でもどのような利用者層や閲覧している資料についてのアンケートは実施しているが、定期的にとすると実施はしていない。

(委員)

予算や時間等の問題で実施は難しいかもしれないが、是非検討願いたい。

※時間の都合上、館内視察は協議会終了後に実施。

(事務局から、議事②についての説明)

(委員)

貸出冊数についてだが、数の中に一括貸出冊数や移動図書館の貸出冊数は含まれているのか。

(事務局)

冊数の中に含まれている。

(委員)

議事①にて聞いた入館者数や貸出冊数の市町村統計を取っているかについて関連するが、今回入館者数についての評価のところでは4点をつけているが、資料の中で全国平均入館者数の少し下をいっているという説明があった。表が見えづらく不明な点があるのだが、東京都や京都府の入館者数が人口に比べて少ないからといって、その図書館がダメと言うことでは無く、市町村サービスとはわけた直接サービスに特化しないようなサービスを行っている図書館だからこそ、都道府県図書館としての役割をしっかりと行っている図書館が下にきていて、直接サービスを一生懸命に行っている図書館が上にきているような表に見える。それを踏まえると、入館者に関しては沖縄県立図書館の場合、沖縄という地域性から離島が多く直接来館できない利用者の方が明らかに多いので、達成評価の中で入館者を指標に含めるのはどうかという考えでいる。数年前に県立図書館の棚卸しがあったときにも、外部から意見があったと思うのですが、その点についての質問とこの数年の間に改善があったのか聞きたい。

(事務局)

この指標は5年間ということで、現在はこの指標で運用しているが、今年度見直しをし

で次年度から移動図書館の利用者数を数える形にするのか、入館者数は全く使用しないのか等、色々な方式があるかと思しますので、その点は検討しているところだ。

(事務局)

補足をすると、この計画はあくまでも5年前の評価指標計画を継続しているものである。昨年も入館者数の数字が一人歩きして、数が多い図書館は頑張っているが少ないところは頑張っていないといった評価をだされることは危険だという認識をしている。次年度に向けてしっかり検討していきたいと考えている。

(委員)

今回の評価資料に関しては5年計画で動いてきており、平成22年度を起点として、そこから目標数値が定められている状況がある。私は途中から評価に関わることになるので、そのあたりは策定された5年前の状況を踏まえた上で、新たな次年度からの評価に向けて、改正も含めた意見をいただくとよりよい形になると思われる。

(委員)

評価指数の文言は5年前に決めたということだが、何カ年使用するかこれから先も同じ文言なのかとか変更する等といった話は県の中ででているのだろうか。

(事務局)

今年度までの指標となっているので、今年度中には文言とともに改訂、見直しを行い、次年度からは別の指標になる。

(委員)

これは、図書館だけではなく全庁あげて指標を見直すということか。

(事務局)

基本は図書館と生涯学習振興課の方で調整することになる。

(委員)

県の教育委員会全体で指標を変えてよいとの話し合いがあるのか。

(事務局)

前回は図書館と生涯学習振興課の中での調整としている。この指標はあくまでも図書館独自のデータとして評価をするというものであり、図書館施設としての評価であると考えていただきたい。しかしながら、このデータが今後あらゆる場面で使われることがあるであらうと思われるので、単独で作成するのではなく生涯学習振興課と調整をしながら作成していかなければならないということをご理解いただきたい。

(委員)

一つの提案として、基本方針の中で県民という言葉が出てきており、役割の中では全体的なという言葉も出ているので、入館者数や貸出冊数の数が減ったとしても那覇の利用者とその他の市町村の割合が7：3から6：4になったのであれば評価としてあがるのでは

ないだろうか。例えば北部地域が増えたとかという評価の仕方もあるのではないか。

(事務局)

検討させてください。

(委員)

達成度の総合評価の欄を見ての話になるが、入館者数と貸出冊数は減っているがレファレンス件数が増加しているということは、県立図書館としての役割がすごく現れているということで、役目に特化していると評価ができる。

(委員)

数値だけで比べてしまう難しさがあるので、その数値のとらえ方といった点も報告書の中に盛り込まれていくという形がとれるようになると、数値だけでは見えてこない部分の評価を示すことができるのではないか。

(委員)

僻地でどれだけ喜ばれているか、満足度の数値化は難しいと思う。ましてや声は届いているのかもしれないが、このような場で形に表すのが大変難しいのではないかなというのがある。

教育とか福祉とか人を相手にすることを、事業で数値化しないといけない際に人とサービスをどのように数値化するかは永遠のテーマとなっている。数字や数値に近い物で表すためにはどうしたらよいかということ、この場で良い案が出たらそれを市町村の図書館も目安にしていくという一つになるのかなと思うので、この指標が今年まででまた新しく考え直される中で表しかたを検討していただけたらと思う。

(事務局)

入館者数や貸出冊数という数字は議会や予算要求の際に聞かれることが多い数字である。予算をつける際や図書館の努力を成果として示すにはわかりやすい数値を求められてしまい、その説明資料として入館者数と貸出冊数などは必然的に求められてしまうということは理解していただきたい。

(委員)

エビデンスは何だと問われ続けていく状況の中で、どうしてもわかりやすいものさしや数値を求められてしまうというのは理解できる。地域ごとの変化などといった数値を上手く組み合わせていくことで、議会等でも図書館の機能が高まっていると PR していただけたらと、よくなっていくのではないかと考える。

(議事③委員から館への提言)

(委員)

インターンシップの申し入れを増やしていくような取組はあるか。もう一点、議事①で行った県立図書館サービスのプレゼンを学校現場に出向き学生向けにやってもらえないか。これから社会に出る学生が、県立図書館の取組やサービスを知ることによって意欲が高まることに繋がり、図書館のサービス向上にも役立つのではないか。

(事務局)

インターンシップについては中学も高校も積極的に受け入れている。ただ、日程が重なる等で受け入れられない面はありますのでご理解いただきたい。二点目の学校に対しての広報ですが、これまで学校現場への広報が弱かったということは認識しており、今後学校図書館や生徒に対して何ができるのかということを真剣に考え、アピールできることに関してはしっかりと広報していく取組をやっていききたい。その一環として、今年初めて小中の校長会にて一括貸出の広報を行い、図書館の役割等についての説明をしましたところ、早速一括貸出を利用したいという申し込みが増えてきている。このように広報の足りなさは感じているのでしっかりと取り組んでいきたい。生徒向けのプレゼンについても今後できるような態勢を整えていきたいと考えている。

(委員)

上記の質問に関連してですが、県立図書館から市町村図書館へインターンシップ受け入れについての助言をいただきたい。以前、身体に障害を持った子を受け入れたことがあるのだが、自館の対応が力不足であることを感じた。県立図書館として実績があるのならば、助言がほしい。

(事務局)

県立図書館ではまだそのような要望がなく受け入れの実績がない。要望があれば対応を検討し、実績を蓄積していきたい。その後で、市町村図書館から対応についての問い合わせがあれば県立図書館として助言等ができると思われる。

(委員)

上記質問の広報について関連するが、所属する会において、市町村への支援に関する県立図書館の取組や、移動図書館などのサービスについて説明をしていきたいと考えている。その際、周知して欲しい事やチラシ等があれば地区の会合にて配布するので渡して欲しい。

平成30年度に移設をするということで事業が進んでいるかと思いますが、現施設の跡地利用について聞きたい。

(事務局)

教育委員会では検討委員会が設置されておらず、跡地利用についての検討はこれからになります。

(委員)

課題の中に図書館職員の人材育成という点があるが、レファレンスサービスの充実を引

き続きお願いしたい。人が中心となるサービスになるので、県立図書館、市町村図書館、公文書館の役割を認識ししっかりさせることや、職員の研修が必要だと感じる。

(委員)

県立図書館から市町村図書館への促進をお願いしたいことがある。図書館評価についてなのだが、県立図書館においては法的根拠に基づいて評価を作成し公表していると思うが、市町村図書館によっては図書館評価を作成していても公表していない館が見受けられる。一般の方が直接問い合わせをし、レファレンスがあった際に公表するという状態だ。館報を作成しているところは公表しているが、毎年館報を作成していない図書館においては毎年公表していないなど、対応にばらつきがある。県立図書館が、研修会が行われた時などに、積極的に公表をするよう促進してもらえないか。

(事務局)

大事なことだと思うので、公立図書館協会や館長部会にて、働きかけをしていきたい。

以上